



日本語の単語帳

あけましておめでとうございます。年が変わっただけで世界を覆っている問題が解決するわけではないとわかっているにもかかわらず、今年こそ良い年になりますようにと願わずにはられません。

さて2021年度から改訂された教科書に合わせて、冬期テキストも改訂されています。その中1の国語において物語文では「ひとえに」「上目づかい」「くだんの」、論説文では「儀礼的」「けなげ」「共生」「すがる」などの言葉の意味を答えさせる問題が出題されています。なんとなくわかるけれど説明できない、あるいは人によって知っているかどうかの個人差が大きいような言葉が並んでいます。

ところで日本語なんて生まれた時から使っているのだからあらためて覚える必要はないと思いませんか。実は英語をはじめとする他の言語を習得するための方法や努力をそのまま国語という名の日本語にも当てはめる必要性を最近特に感じています。辞書の三省堂が毎年発表している「今年の新語2021」の大賞は「チルい」だそうです。「落ち着いて気分が良い」という意味でそのうち辞書にも載るかもしれません。私は全く知らなかったのですが北海道弁の「あずましい」と同じ使い方かなと理解しました。このように時代とともに新しい言葉がどんどん定着していく中で、これまで社会である程度広く使われてきた言葉をまずは知っておきたいものです。

そのための方法ですが、私自身はスマホのメモ機能を利用していますが、しかし定着度ということを考えるとやはり紙と鉛筆を使いましょう。リング式のちょっと大きめの英単語帳を利用してもいいでしょうし、手帳サイズのA6やB7のノートに書きこむのもあります。日本語であれば国語に限らず、数学や社会や理科の用語でも知らなかった言葉を取り上げ、意味をメモすることをとりあえず1か月続けてみましょう。そういえば、今はNHKの報道記者をしているこの塾の卒業生が中1の頃「ネタ帳」と称して小さなノートを持ち歩いていました。中身はベルゲンの先生方のおもしろエピソードを熱心にメモしたものだったようですが…。